

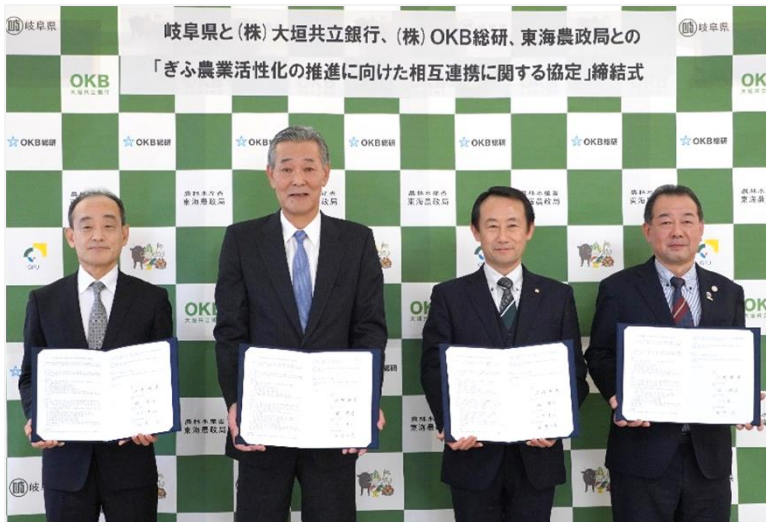


岐阜県、大垣共立銀行、OKB総研と 「ぎふ農業活性化の推進に向けた連携協定」を締結しました

東海農政局は、2月16日、岐阜県庁において、岐阜県、大垣共立銀行（岐阜県大垣市）、OKB総研（岐阜県大垣市）と「ぎふ農業活性化の推進に向けた連携協定」を締結しました。

これまで東海農政局では、教育機関や企業と連携協定を締結してきましたが、地方自治体との連携協定、3者以上での連携協定を締結するのは初めてです。

行政の司令塔である岐阜県、幅広い企業とネットワークを持ち「OKBアグリビジネス助成金」など農業振興にも取り組んでいる大垣共立銀行、海外輸出等のノウハウを有するOKB総研、東海農政局の4者が相互に連携・協力することにより、岐阜県における新たな担い手の確保や農畜水産物の輸出拡大等を促進していきます。



（左から）OKB総研 小川社長、大垣共立銀行 林頭取、岐阜県 江崎知事、東海農政局 秋葉局長

連携内容

1. 多様な主体を含めた担い手の確保に関すること
2. 産官学の連携を通じた生産強化に関すること
3. 国内外での販路拡大や地消地産の推進に関すること
4. その他、相互に連携及び協力することが必要と認められる事項に関すること

この連携協定に基づく第一弾として、3月5日、4者共催で、農業参入に関心がある企業等を対象に、実際の受入事例等を紹介するセミナーを、OKB SCLAMB（岐阜市）で開催しました。

東海農政局からは、参入企業やサービス事業者等が活用できる機械導入の支援事業を紹介しました。



東海農政局からの事業紹介

お問合せ先 企画調整室 TEL 052-223-4610

第2回みどり戦略学生チャレンジ全国大会で 東海学院大学が農林水産大臣賞を受賞しました

農林水産省は、2月14日、農林水産省講堂（東京都千代田区）において、「第2回みどり戦略学生チャレンジ全国大会表彰式」を開催しました。

東海ブロック大会の大学・専門学校の中でグランプリを受賞した東海学院大学が農林水産大臣賞を受賞し、根本農林水産副大臣から表彰状等が授与されました。



東海学院大学の皆さんと根本農林水産副大臣

<受賞した東海学院大学の取り組み>

産学官連携で取組む規格外野菜の商品化Ⅱ

環境負荷低減に配慮して栽培したニンジンを用い、容器にはバイオプラスチックを使用した弁当を開発・販売。弁当には環境配慮が見える化したラベルを貼付し、持続可能な消費について消費者の理解を促進。

詳細は
こちら



お問合せ先 企画調整室 TEL 052-223-4610

「フラッグシップ輸出産地」を認定しました

農林水産省では、一層の輸出拡大を図っていくため、海外の規制やニーズに対応して継続的に輸出に取り組み、輸出取組の手本となる産地を「フラッグシップ輸出産地」として認定しています。

認定産地の取り組みを横展開して他の輸出産地の形成を促進するとともに、認定産地に対しては更なる拡大・発展を後押しする支援を行っています。

このたび、フラッグシップ輸出産地として全国で新たに28産地が認定され、このうち、東海農政局管内（岐阜県、愛知県、三重県）の4産地に対し、東海農政局から認定証を授与しました。



(左) 飛騨ミート農業協同組合連合会
コンソーシアム 会長 志田 浩一 氏



株式会社あいや
代表取締役社長 杉田 武男 氏



(右) 丸原水沢製茶株式会社
代表取締役社長 原 辰徳 氏



(右) 有限会社萩村製茶
代表取締役社長 萩村 浩史 氏

飛騨ミート農業協同組合連合会コンソーシアム

輸出品目：牛肉（飛騨牛）
主な輸出先国：台湾、香港 等

【輸出産地の概況】

飛騨ミート農業協同組合連合会を中心に、飛騨牛生産者団体や輸出商社をメンバーとするコンソーシアムを結成し、輸出に取り組んでいる。

【海外の規制・ニーズに対応した生産・流通の取組】

ISO22000、FSSC22000の認証を取得するとともに、EUやアメリカをはじめとする19の国・地域の輸出施設認定を取得。



【産地概要】

徹底した衛生管理のもとで牛肉を処理

株式会社あいや

輸出品目：茶（抹茶）
主な輸出先国：アメリカ、ドイツ 等

【輸出産地の概況】

茶生産者48者と連携し、アメリカ・EUをはじめ多くの国に向けた抹茶の輸出に取り組んでいる。

【海外の規制・ニーズに対応した生産・流通の取組】

世界各国の残留農薬基準に対応した碾茶（抹茶の原料）を生産。

加工施設について、FSSC22000、コーシャ、HALALおよびレインフォレスト・アライアンスの認証を取得。



【産地概要】

海外向け抹茶製品

丸原水沢製茶株式会社

輸出品目：茶（抹茶）
主な輸出先国：アメリカ、ドイツ 等

【輸出産地の概況】

茶生産者7者と連携し、アメリカ・EU向けに抹茶の輸出に取り組んでいる。

【海外の規制・ニーズに対応した生産・流通の取組】

防除計画に基づく栽培により、アメリカ・EUの残留農薬基準に対応。

自社、連携生産者ともにレインフォレスト・アライアンスの認証を取得。加工場についてはFSSC22000認証も取得。



【産地概要】

ほ場およびFSSC22000認証の取得工場

有限会社萩村製茶

輸出品目：茶（抹茶）
主な輸出先国：フランス、マレーシア 等

【輸出産地の概況】

自社で茶農園を管理するとともに茶生産者30者と連携し、アメリカ・EU等向けに抹茶の輸出に取り組んでいる。

【海外の規制・ニーズに対応した生産・流通の取組】

防除計画に基づく栽培により、アメリカ・EU等の残留農薬基準に対応。

農場及び加工場について、JGAP、FSPCA、有機JAS規格、HALAL、FSSC22000およびISO22000の認証を取得。



【産地概要】

抹茶生産用の石臼および海外展示会の様子



←全国の認定フラッグシップ輸出産地はこちら
<https://www.maff.go.jp/j/shokusan/export/gfp/240807.html>

東海農政局管内の認定フラッグシップ輸出産地はこちら→
<https://www.maff.go.jp/tokai/keiei/renkei/export/20260226.html>

お問合せ先 経営・事業支援部 輸出促進課 TEL 052-223-4619



令和7年度東海地域農業女子セミナーを開催しました

東海農政局は、2月16日、東海地域の女性農業者の活動支援と交流促進を目的とし、「令和7年度東海地域農業女子セミナー」を開催しました。

当日は、農業女子プロジェクトメンバーや女性農業者、地方自治体担当者等約20名が参加しました。

セミナーでは、ブルーベリーの枝など、農作物の端材から染料を抽出し独自の衣服を試作した農業女子プロジェクトの事例や、環境に配慮して生産した農産物の販売に「みえるらべる」を活用している管内事業者の事例について、関係者からの講演とメンバー本人からの発表が行われました。

参加者からは「普段の農業とは違う話が聞けて新鮮だった」「今後の農業経営に取り入れてみたい」等の声が寄せられました。



参加者と講師の皆さん



「みえるらべる」を表示した商品

前列左から2番目のメンバーが持っているのは、ブルーベリーの枝から抽出した染料で染色したシャツ

農業女子プロジェクトとは

女性農業者の知恵を生かした商品・サービスの開発、SNSやイベントを活用した女性農業者の魅力発信等を行う取り組みです。社会における女性農業者の存在感を高め、職業としての農業を選択する若手女性の増加を目指して、農林水産省が推進しています。

お問合せ先 経営・事業支援部 経営支援課 TEL 052-223-4620



講演会

- (左) 東京農業大学 小川 繁幸 准教授
- (右) つむぎて農園 代表 杉山 修一 氏



交流会

講師も交えて、講演内容や日頃の農業経営等について、参加者間で意見交換を行いました。

農業女子プロジェクトの公式ウェブサイトはこちら



<https://nouguyoujoshi.maff.go.jp/>

「令和7年度東海地域有機農業フォーラム」を開催しました

東海農政局は、2月17日、あいち有機農業推進ネットワークと共催で、「令和7年度東海地域有機農業フォーラム『本音で話そう！農業と食卓の未来』～おいしい未来、どう育てる？農家と消費者と行政が語る、みどり戦略の本音～」をウィルあいち（名古屋市東区）で開催しました。

吉野隆子ネットワーク代表による開会あいさつの後、基調講演を行い、その後のリレートークでは、登壇者の活動や有機農業への思いについて報告がありました。また、会場の参加者によるバズセッションに続くフリーディスカッションでは、会場から「消費者の求める有機農業に関する情報とは何か」「有機農産物の流通ルート開拓」「学校給食における有機農産物の調達場面の課題」「気候変動に対する有機農業の優位性」などの意見が出され、登壇者と意見交換しました。

基調講演、リレートーク



秋葉局長 石川 法泰氏 伊藤 和徳氏 佐藤 ゆうこ氏 寺島 晴彦氏

東海農政局秋葉局長による基調講演「有機農業の推進に向けて」に続くリレートークでは、石川氏（野菜生産者）、伊藤氏（水稲生産者）、佐藤氏（消費者）、寺島氏（自治体職員）から、有機農業の活動状況や今後の展望、有機農業への思い等について意見が述べられました。

フリーディスカッション



登壇者同士の意見交換や、会場参加者から登壇者への質問やアイデアを投げかける形のフリーディスカッションを行い、生産、流通、販売等に関する質疑応答を実施しました。

参加者アンケートでは、「有機農業の現状や社会ニーズを理解できた」「登壇者と直接意見交換できて有意義であった」「次回はオーガニックビレッジに取り組む自治体の成果と課題を聞いてみたい」等の評価が寄せられました。

フォーラムの概要、資料はこちら



<https://www.maff.go.jp/tokai/seisan/kankyo/youki/youkiforum2024.html>

お問合せ先 生産部 環境・技術課 TEL 052-746-1313

2025年農林業センサ結果が「地域の農業を見て・知って・活かすDB」に掲載されます

「地域の農業を見て・知って・活かすDB」（活かすDB）は、農林業センサ調査結果、他府省統計調査結果（国勢調査等）、行政情報（農業基盤情報、多面的機能支払等）などの各種データを全国約15万の農業集落単位に組み替えて編成したデータベースです。地域農業の現状をグラフや地図で見える化することや、国勢調査や行政情報と組み合わせて分析することができます。

2025年農林業センサ結果について、活かすDBに令和8年4月末以降順次掲載されます。

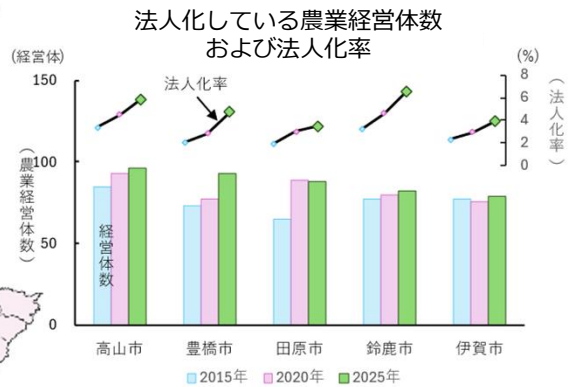
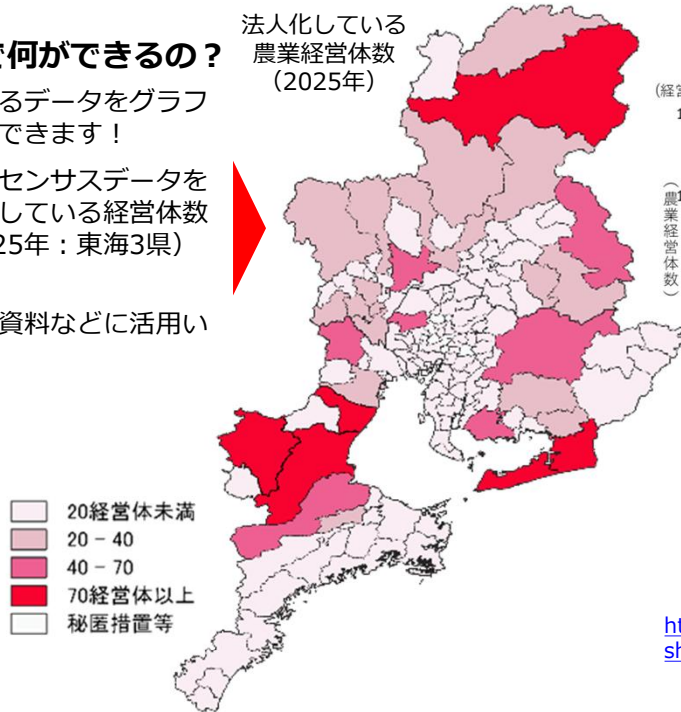
「活かすDB」で何ができるの？

地域農業に関するデータをグラフや地図で見える化できます！

例えば、農林業センサデータを利用して、法人化している経営体数（2015年から2025年：東海3県）を見える化

地域農業の行政資料などに活用いただけます。

法人化している
農業経営体数
(2025年)



2025年において、法人化している経営体数が上位の5市について記載した。

「地域の農業を見て・知って・活かすDB」
はこちら →

https://www.maff.go.jp/j/tokei/census/shuraku_data/index.html



「活かすDB」
ロゴマーク

「活かすDB」の利用に関することや技術的な相談を受け付けています。お気軽にご相談ください。

お問合せ先 統計部 統計企画課 TEL 052-763-4730
統計部 経営・構造統計課 TEL 052-763-4731

お知らせ

東海農政局は令和8年5月に新庁舎へ移転します

新庁舎

名古屋市中区三の丸二丁目6番2号 名古屋第4地方合同庁舎

新庁舎での業務開始日

令和8年5月7日（木）

企画調整室、総務課、会計課、
消費・安全部（米穀流通・食品表示監視課は一部）
生産部、経営・事業支援部、農村振興部

令和8年6月1日（月）

消費・安全部（米穀流通・食品表示監視課の一部）、統計部

（注）部署により移転先における業務開始日が異なります。
来庁する際はお間違えのないようご注意ください。

お問合せ先 総務課 TEL 052-223-4612



詳細はこちら

<https://www.maff.go.jp/tokai/press/somu/260323.html>



【編集後記】4月から新しい生活が始まった方も多いのではないのでしょうか。新規採用の方や人事異動で勤務地が変更となった方など、新天地での生活に早く慣れていただき、ご活躍されることを期待しています。

<編 集> 東海農政局 企画調整室 TEL 052-223-4610

<ウェブサイト> <https://www.maff.go.jp/tokai/>

東海農政局



「食・農びっくあっぷ」
ウェブサイト



メールマガジンの
登録はこちら



東海農政局
公式 X